

教育相談部調査研究事業

不登校の子供の心身変化を的確に捉えた支援の在り方
～子どもと親のサポートセンターの実践からみえてくるもの～

千葉県子どもと親のサポートセンター
教育相談部 笠井 明子



1

主題設定

R5相談総数 20,875件
来所相談 6,255件※ 延べ回数 **不登校・不登校傾向** 来所相談全体の**60%**

面接を通して聞こえてくる声は…



子供、保護者と学校とのすれ違い…？

適切な学校の初期対応

千葉県子どもと親のサポートセンター

2

研究目的

適切な**学校の初期対応**のために

1 「ケース事例集」の作成・検証

2 「不登校初期対応プログラム」の作成・実践・検証

学校現場で実践できる
関わりのヒントの提案

千葉県子どもと親のサポートセンター

3

研究計画

令和5年度 基礎研究

- センター内事例収集及び質問紙調査
- 「ケース事例集」「不登校初期対応プログラム（骨子案）」作成

令和6年度 実践的研究

- 「ケース事例集」による初期対応の意識調査
- 研究協力校における「不登校初期対応プログラム」の実践・評価

「ケース事例集」・「不登校初期対応プログラム」の完成

千葉県子どもと親のサポートセンター

4

研究方法「ケース事例集」

「ケース事例集」の作成

センター内で対応している不登校を主訴とした事例収集・分析を通した

「ケース事例集」の作成

「ケース事例集」の検証

「ケース事例集」の活用における初期対応の重要性について、アンケートによる調査

千葉県子どもと親のサポートセンター

5

研究の概要「ケース事例集」作成について

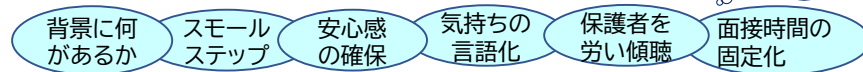
作成の目的

センターで培ってきた専門的な視点、不登校支援の実践から、学校現場で実践できる関わりのヒントの提案を目指す

調査の方法

センター内職員(所員・心理師等 計23人)
「不登校」を主訴とする事例についての調査(質問紙)

関わりの
ポイントを
抽出



「ケース事例集」

千葉県子どもと親のサポートセンター

6

研究の概要「ケース事例集」作成について

ケース1 小1女子
母から離れられないA

事例の概要
初年度(小1)1学期前半から登校を始めることがあった。
小1女子、1学期前半から登校を始めることがあった。
朝になると吐き気と腹痛を訴えるようになった。
母と離れられないが、母と一緒に学校に登校できる。
学校では保健室で過ごしている。保健室では落ち着いて過ごすことができる。
課題はやらず、好きなことをして過ごすことが多い。
マイルール(本児独自のルール)があり、ネガティブな感情は言葉で表現できない。
母以外への大人への警戒心が大きい。
先生や友達からの声掛けに反応せず、関わろうとしない。

保護者の学校への思い
・最初は、先生や友達の声掛けを聞いてくれていたけれど、だんだん慣れてしまっで、わかってもらえない感じがします。
・どんな時に不安に感じてしまうのか、保護者と情報の共有、できていましたか？

保護者の学校への思い
・最初は、先生や友達の声掛けを聞いてくれていたけれど、だんだん慣れてしまっで、わかってもらえない感じがします。
・どんな時に不安に感じてしまうのか、保護者と情報の共有、できていましたか？

保護者の学校への思い
・最初は、先生や友達の声掛けを聞いてくれていたけれど、だんだん慣れてしまっで、わかってもらえない感じがします。
・どんな時に不安に感じてしまうのか、保護者と情報の共有、できていましたか？

ケース1 小1女子
母から離れられないA

事例の概要
初年度(小1)1学期前半から登校を始めることがあった。
小1女子、1学期前半から登校を始めることがあった。
朝になると吐き気と腹痛を訴えるようになった。
母と離れられないが、母と一緒に学校に登校できる。
学校では保健室で過ごしている。保健室では落ち着いて過ごすことができる。
課題はやらず、好きなことをして過ごすことが多い。
マイルール(本児独自のルール)があり、ネガティブな感情は言葉で表現できない。
母以外への大人への警戒心が大きい。
先生や友達からの声掛けに反応せず、関わろうとしない。

保護者の学校への思い
・最初は、先生や友達の声掛けを聞いてくれていたけれど、だんだん慣れてしまっで、わかってもらえない感じがします。
・どんな時に不安に感じてしまうのか、保護者と情報の共有、できていましたか？

保護者の学校への思い
・最初は、先生や友達の声掛けを聞いてくれていたけれど、だんだん慣れてしまっで、わかってもらえない感じがします。
・どんな時に不安に感じてしまうのか、保護者と情報の共有、できていましたか？

保護者の学校への思い
・最初は、先生や友達の声掛けを聞いてくれていたけれど、だんだん慣れてしまっで、わかってもらえない感じがします。
・どんな時に不安に感じてしまうのか、保護者と情報の共有、できていましたか？

千葉県子どもと親のサポートセンター

7

事例の概要

<事例の概要>
初来所：小1 来所時期の状態：中期 不登校になり始めた時期：小1 来所年数：5年

小1女子。1学期前半から登校を流ることがあった。
朝になると吐き気と腹痛を訴えるようになった。
母と離れられないが、母と一緒に学校に登校できる。
学校では保健室で過ごしている。保健室では落ち着いて過ごすことができる。
課題はやらず、好きなことをして過ごすことが多い。
マイルール(本児独自のルール)があり、ネガティブな感情は言葉で表現できない。
母以外への大人への警戒心が大きい。
先生や友達からの声掛けに反応せず、関わろうとしない。

保護者の思い

保護者の学校への思い
・始めは、先生や友達の声掛けを聞いていたけれど、だんだん慣れてしまっで、わかってもらえない感じがします。

初期対応の課題

初期の対応の課題として考えられること
・どんな時に不安に感じてしまうのか、保護者と情報の共有、できていましたか？



千葉県子どもと親のサポートセンター

8

初期における見立て

見立てのヒント

①この児童の状況をどのように理解すればよかったのでしょうか？

母子分離に不安がある状態や、独自のルールがある場合は、その背景の要因を考える必要があるケースです。発達の特徴が存在しているかどうか、理由がわからず叱られてばかりいるなど、慣つき体験や二次障害に陥っている可能性にも注目して見立てることが必要です。

担任ができる対応策

◎子供の状況をつかめたら、まずはやってみましょう。
(学級担任等として)

☆事例から考えましょう

児童生徒理解	初期の対応として必要な視点	学校としてのかかり
母親との関わりの中で、離れる事に対する不安が生じてしまうのではないかな。	○どんな時に不安に感じってしまうのかを聞き安心できるようにする。 ○母親には、徐々に離れて見守ることを提案する。 △無理に母親と離すようなことはしない。	○やってほしいこと △気を付けたいこと
発達の特性が存在している可能性はないだろうか。	○独自のルールがある場合には、周りの友達にも理解してもらえよう、働きかけ。 △どのような状況に参加できるか、参加できない場合はどうするかを本人や保護者と一緒に考える。	
先の見通し(予定等)をもつことが出来ず不安になっているのではないかな。	○1週間分など、少し先の予定を提示して、見通しをもたせる。 ○急な変更はできるだけ行わない。(変更がある場合には、事前に話しておく。)	
組織的対応	○環境が変わる時には、できるだけ詳しく伝える。 ○一緒に過ごせる友達がいたら、その友達と行動できるように打ち合。 ○クールダウン。 △仲間との一	

・保護者と情報を共有して、本人が安心
教室内の環境を工夫する。
・得意な事を生かして、友達に認められ

千葉県子どもと親のサポートセンター

9

会議の例

校内体制のヒント

②校内における組織的な対応はどのように進めたらよいでしょうか？

母と一緒に登校できるので、できていることは十分に認め、安心して離れられるようによりよい関係を作っていく必要があります。焦って母から離すと、逆に悪化してしまうことがあるので、配慮しましょう。

①本人が安心して母親と離れるためには、母と周りの教員が他愛もない雑談で笑ったりすることが安心感につながります。
②学級に入りやすい雰囲気を作るためにも、教室内の環境調整、協力体制を整えておきましょう

会議後の見立て

今後の支援

③会議をふまえた結果(見立て)

④今後の支援について

- ・学級担任としてどのように関わったらよいでしょうか？
- ・保護者との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【ケース会議】メンバー：担任、学年主任、教務主任、教育相談担当、養護教諭、SC

【目標】 母親と一緒に登校した後、昇降口で母親と離れることができるようにする。

必要な視点	担当	対応方法
指導の進捗状況を把握する	教育相談 担当	担任と連絡を密に図り、進捗状況を把握する。
保護者を支える	学年主任	教室の外で見守る母親に声をかけ、話を聴く。(徐々に別室へ)
他の児童生徒への指導を行う	教務主任	始業前に教室に行き、他の児童生徒の指導をする。(朝の連絡など打合せをしておく。)
教室に入れない場合の対応	養護教諭 SC	母親から離れられない場合には、母親と一緒に保健室の利用や、談室の利用が可能であることを、担任と一緒に確認しておく。
本人の不安や家庭の様子	担任 SC	本人が不安に思っていることや、こだわりの部分、家庭での様子、生活リズムなど、本人の状況を面談から把握する。

□発達の特徴や母子関係の経緯を踏まえ、安心に必要なものではないか。

【安心できる環境を作る】

□Aが登校する時間帯を母親と確認し、Aが安心又は養護教諭と連携して対応)

【状況の把握や学校でできる支援について共に考え】

□少し先の計画など、保護者と一緒に確認し、見

千葉県子どもと親のサポートセンター

10

関わりのヒント

子サポの関わり

・その時の状況に合わせた対応を考えました。まずは「安全基地」を作ること、自分を表現することができるように関わり続けました。

＜子サポの関わりを通して＞

来所当初は、母子分離が難しかったため、担当2名と母・子の4人同室でプレイセラピーを実施してきました。とにかく安心感を持ってもらうこと、「安全基地」を作ることを中心に関わってきました。

遊びの中で負けを認められないため、自分に有利なルールを設けるなどしつつも、大人3人がそれを受け入れることをくり返し行いました。指導的な対応は一切せず、今、何が起きているのか、状況の言語化を繰り返し行ってきました。次第にチームプレイを好むようになり、協力するようになってきました。負けも認められるようになると相手チームに交渉する姿が見られるようになりました。

現在は高学年になり、校内支援教室へ登校。自分のペースで校内行事等にも参加できるようになっています。

＜欠席を長期化させないために＞

ちよこさぽ

母と一緒に登校できた時にやってみよう

①興味のあることを話をしたり、一緒に行ったりして、安心できる関係をつくりましょう。

②前日に電話や連絡帳、タブレットなどを活用して、次の日の予定を伝え、見通しを持てるようにすると安心です。

登校を逃したり、母親と離れられない状態にある時、無理に引っ張ったり「保健室に来られたら、教室にも行けるよね」など、大人のペースで行動させることによって、逆に状態が悪化してしまうことがあります。まずは、子どもが不安な気持ちに寄り添い、十分な安心感を持たせることが必要です。

間も自然に増えていくと思われ、また、保護者を変える視点の状況を心配し焦りがちになれば、徐々に新しい環境に適応する不安も軽減されると思われ、体制を組み、学校体制

※ちよこさぽ 学校でちよこさぽとできる初期のサポート

千葉県子どもと親のサポートセンター

11

研究の概要 「ケース事例集」の検証について

アンケート結果 教育相談上級研修受講者(20名)を対象にアンケートを実施。

ケース事例集から、初期対応の重要性を感じることはできましたか

できた	14人	70%
ややできた	6人	30%
できなかった	0人	0%

※肯定的意見(できた、ややできた)100%

千葉県子どもと親のサポートセンター

12

研究の概要 「ケース事例集」の検証について

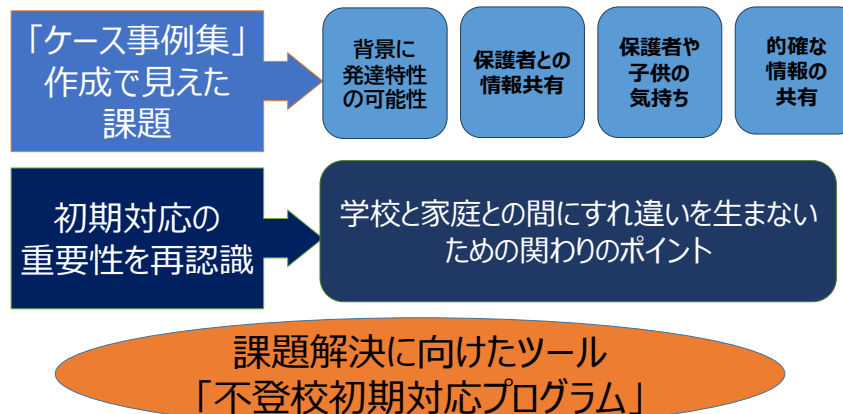
考察

- ・初期対応を捉えるタイミング、ケース会議の手引、校内研修で活用できる。
- ・「ケース事例集」は初期対応の重要性を理解するためのツールとして有効。
- ・不登校支援の手引としても効果的に活用できる。

千葉県子どもと親のサポートセンター

13

研究の概要 「ケース事例集」作成から見てきたもの



千葉県子どもと親のサポートセンター

14

研究方法 「不登校初期対応プログラム」

「不登校初期対応プログラム」の作成

子供の心身変化を初期段階で把握し、状況に応じて対応できる
「不登校初期対応プログラム」の作成



「不登校初期対応プログラム」の実践・検証

研究協力校における「不登校初期対応プログラム」の実践
質問紙調査、半構造化面接による評価

千葉県子どもと親のサポートセンター

15

研究の概要 「不登校初期対応プログラム」作成について

作成の目的

初期の心身・行動の変化を可視化し、教職員が的確に捉えることで、欠席初期の学校内の対応が効果的に実践することができるか検討する。

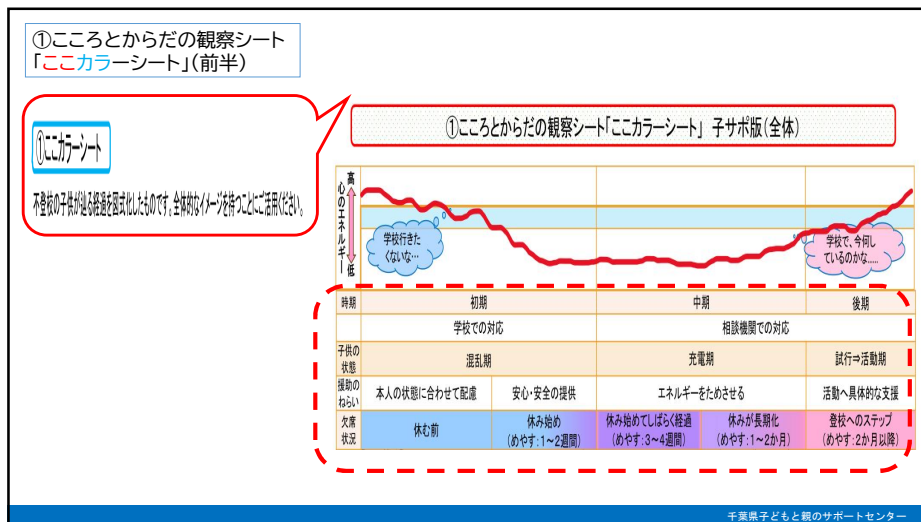
各シート作成の方法 不登校の子供に表れる初期の心身・行動の変化について、センター内職員で検討

- 心のエネルギーの可視化
- 初期と捉える時期や変化の具体的な内容の理解
- 家庭へのアドバイス

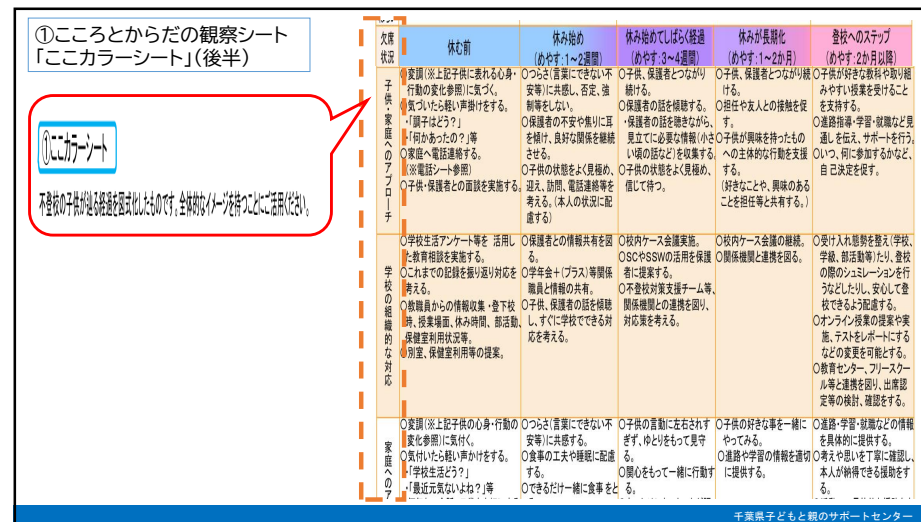
4つのシートを作成 「不登校初期対応プログラム」を構成

千葉県子どもと親のサポートセンター

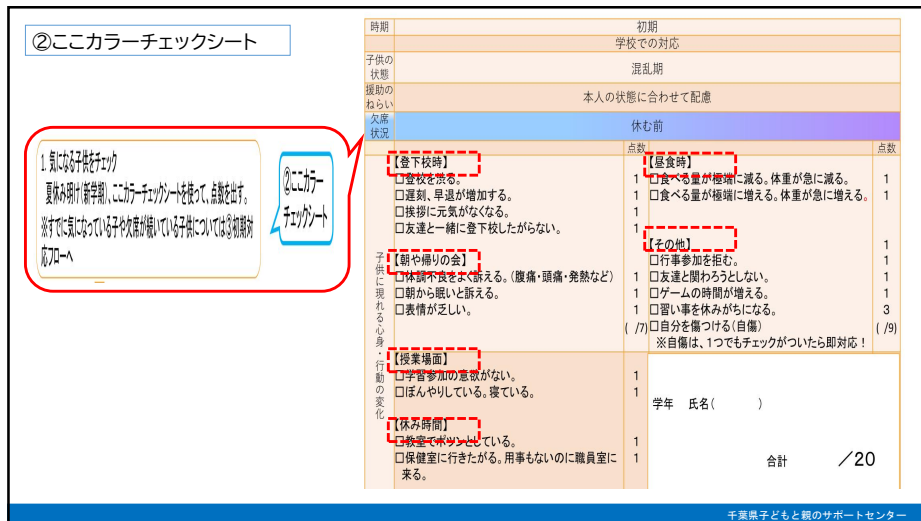
16



17



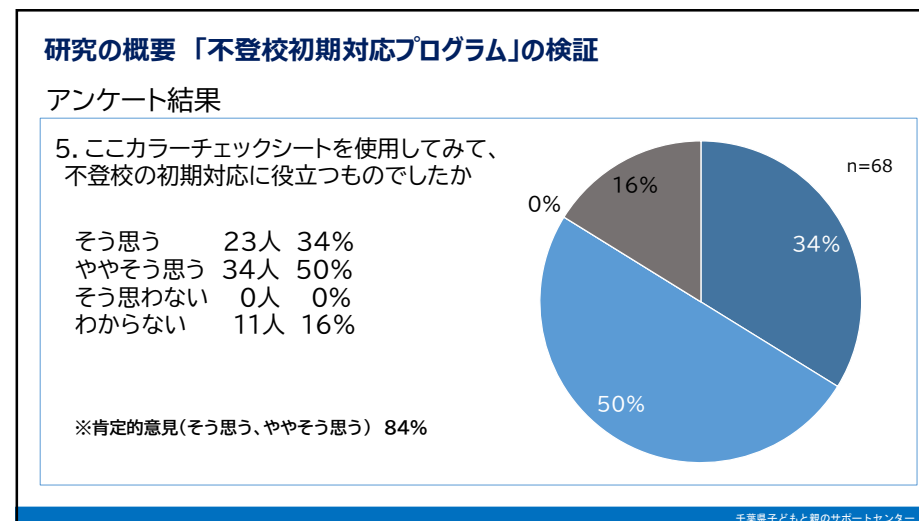
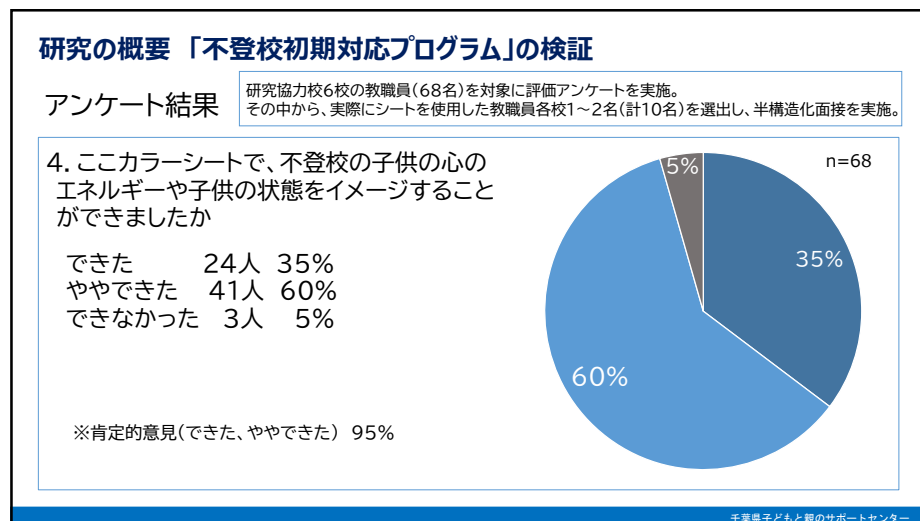
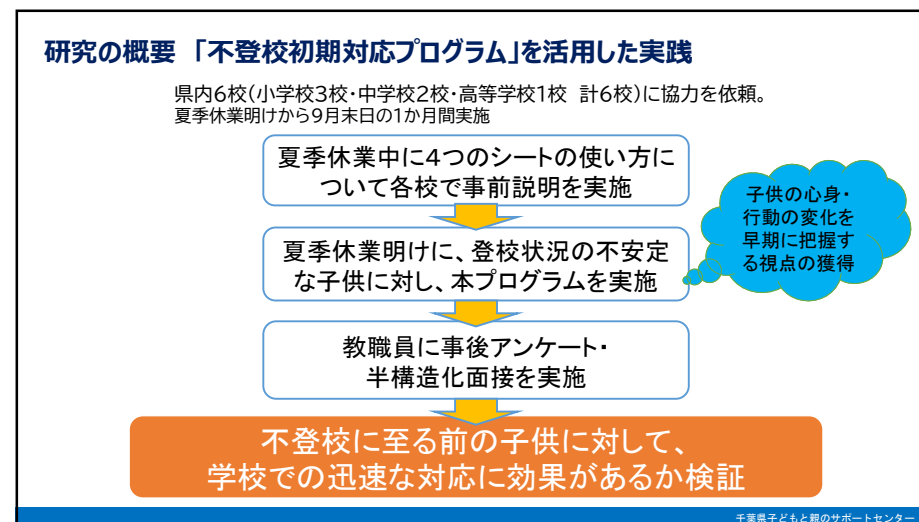
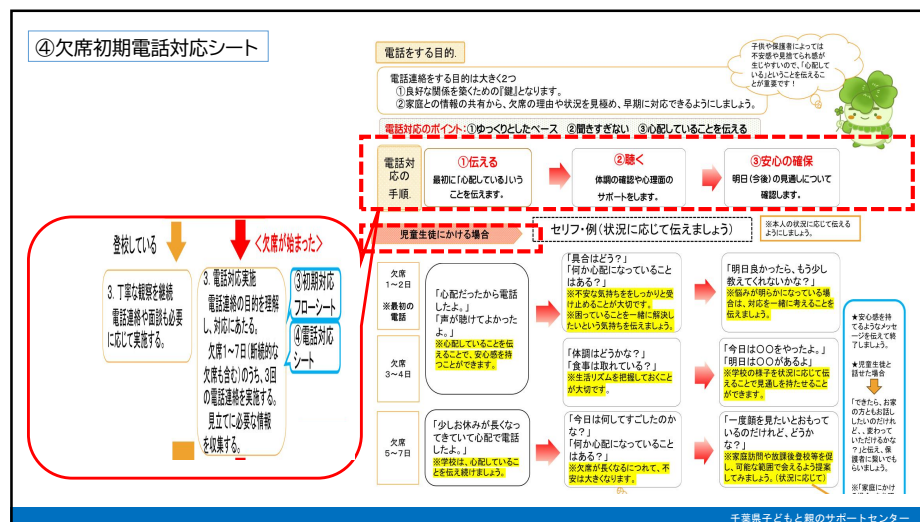
18



19



20

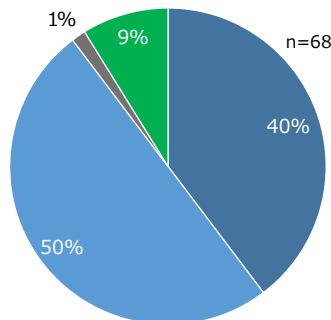


研究の概要「不登校初期対応プログラム」の検証

アンケート結果

7. 初期対応フローについて、不登校支援に役立つものでしたか

そう思う	27人	40%
ややそう思う	34人	50%
そう思わない	1人	1%
わからない	6人	9%



※肯定的意見(そう思う、ややそう思う) 90%

千葉県子どもと親のサポートセンター

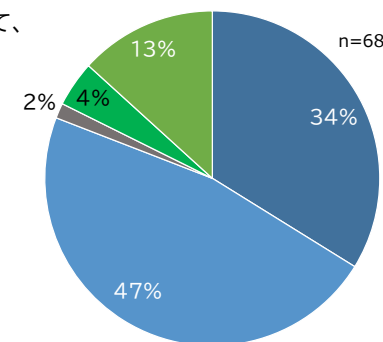
25

研究の概要「不登校初期対応プログラム」の検証

アンケート結果

8. 欠席初期電話対応シートを使用してみて、不登校初期対応に役立つものでしたか

そう思う	23人	34%
ややそう思う	32人	47%
そう思わない	1人	2%
わからない	3人	4%
使わなかった	9人	13%



※肯定的意見(そう思う、ややそう思う) 81%

千葉県子どもと親のサポートセンター

26

研究の概要「不登校初期対応プログラム」を活用した実践

考察

- ・肯定的な意見 87.5% ※肯定的意見の平均
⇒子供の心身・行動の変化を早期に把握し、学校での迅速な対応に効果があることが明らかになった。
- ・不登校の未然防止や学校への復帰に至ったケースもあった。
- ・ベテランから若年教員まで幅広い層から、初期対応の大切さを見直すことができる。

千葉県子どもと親のサポートセンター

27

成果と課題

【成果】

○「ケース事例集」

学校現場における不登校対策と欠席初期対応の視点等が明確化

○「不登校初期対応プログラム」

学校現場における不登校対策としての効果

【課題】

○「ケース事例集」

様々な主訴のケースを収集

○「不登校初期対応プログラム」

特別支援学校等、発達段階や校種に応じたシートの作成

千葉県子どもと親のサポートセンター

28

研究のまとめ

初期対応を明確化することで不登校の未然防止や深刻化を防ぐ。

教育相談の「共通のものさし」として活用

教育相談について深めるためのツール

千葉県子どもと親のサポートセンター

29

ご清聴ありがとうございました。

千葉県子どもと親のサポートセンターHP



千葉県子どもと親のサポートセンター
マスコットキャラクター こさぼん

千葉県子どもと親のサポートセンター

30